

探訪

うめすけの多古町

「梅鉢紋の松平一族」



今回は十余三地区を縦断しました。そのまま昔の十余三小学区を抜けると、第二小学区の飯笹に入ります。県道79号線の西方面は来月訪れる予定とし、まずは東へ進み坂を下りましょう。

山間に田圃が続く、いわゆる日本の原風景が左右に見えてきます。右側の集落内にあるのが、古民家一棟貸し宿「大三川邸」、左側へ細い道を登っていくと飯笹陣屋跡地があります。

陣屋という言葉は時代により意味が変わりまして、近世は城より小規模な役所を指しました。多古藩の政務を執っていたのが後に多古第一小学校となる多古陣屋、江戸時代に千葉県一の人口を誇った銚子の中心が高崎藩(群馬県)の出張所である飯沼陣屋でした。しばしば時代劇に出てくる代官所も陣屋の一種でしょう。

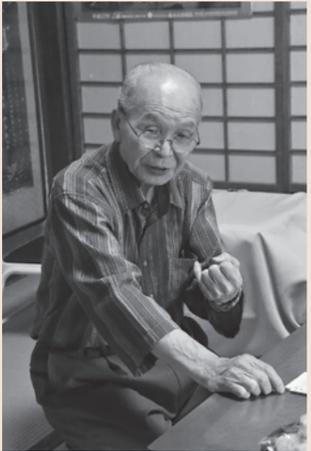
飯沼陣屋は、大名ではなく旗本松平家の拠点だった点で異質。旗本は將軍の旗の下(本)が語源とされ、本来なら江戸に常駐なのですが、この松平家は参勤交代をする珍しい旗本でした。多古藩の松平家とは親戚関係にあり、徳川家康の異父弟三人が松平姓を許された家系です。元の苗字を添えて久松松平と呼ばれ、家紋は水戸黄門の印籠でお馴染みの「三つ葉葵」ではなく、天神様所縁の「梅鉢」だったと思われる。

飯沼の松平家は三兄弟の長子一族、嫡子は主に康の字を用いました。多古藩は上の第一族で勝の字を用います。そして末っ子の一族は定の字を用い、大河ドラマ『べらぼう』の松平定信が該当します。彼は將軍に最も近い家から「梅鉢」の松平、家康の子孫ではない親族へ養子に出されて就任の目がなくなり、渡辺謙さん演じる田沼意次を恨んでいたわけですね。そんな観点でドラマを見るのも一興ですし、郷土史や自家の定紋を考えるきっかけにするのも有意義ではないでしょうか。

戦争を見つめて

令和7年(2025年)は、昭和20年(1945年)の太平洋戦争終結から80年の節目の年です。広報たこでは数回にわたって戦争を振り返ります。

【戦争体験を聞く】 松本 照龍さん



いまとは違う日常

私が小学校三年生の時のことですが、学校に登校するとき先生も子どもたちも、必ず奉安殿という社の前で最敬礼をしてから校舎に入っていました。教室には、出征兵士や、戦死した方々の写真が多く貼られ、校庭では軍列行進などの軍事教練を行いました。軍事教練の指導は学校の先生ではなく、当時の軍人が行っていたのです。今では考えられないと思いますが、この時は多古町も戦争一色でした。

空襲警報は多古町でも頻りに鳴っていました。当時は朝も夜も毎日警報が鳴っていたので、サイレンの音を聞き必死で逃げたことが、私の印象に残っている出来事の一つです。授業中に警報が鳴ると、すぐに授業を中止して山に逃げ込んでいました。登校中に警報が鳴ると、学校が休みになることもありましたが、学校が休みになってうれしいという気持ちもありましたが、戦争によって休みが増えているという現実を思う

と複雑な気持ちになりました。夜は上空から飛行機に見つからないように、裸電球に布をかぶせて外からは見えないように工夫していました。

戦争によって私たちの生活は一変し、今まであった当たり前がいつの間にか変わってしまったのです。



がまんの多かった戦時中の暮らし

戦時中は食べ物が大変貴重だったため、今のように何でも好きなものを食べられるような時代ではなく、主に芋ご飯を食べていました。それに、水道なんてものもなく、近くの井戸から鶴瓶と呼ばれる桶を使って生活用水をくんで運んでいたんです。今は蛇口をひねるだけで水が出てくるので、便利な世の中になったなと感じています。

また、戦前は多くの油をアメリカからの輸入に頼っていましたが、対立する立場になったことで不足してしまいました。代替燃料をつくるため、放課後や休日には農家



の茶畑からお茶の実を頂きました。また、松の幹に筋を入れて樹脂を採取したりする人もいましたね。集めたものを精製して作った油の代替品は、明かりの燃料としても貴重なものでした。さらに当時は油だけではなく金属も不足していたため、国は供出と呼ばれる政策を行い、家庭の鍋や釜、お寺の鐘など、多くの金属が回収されていたのです。食べ物だけでなく色々なものが不足していて、常に我慢を必要とする時代でした。

戦争体験を通して

戦時中、私は多くの悲惨な出来事を体験し、戦争による影響をこの目で見てきました。見て体験したからこそ、戦争には人一倍強い感情を持っています。今起こっている戦争や紛争の数々を耳にすると、自分に何かできることはないのかと考えています。

【編集後記】

戦時中の生活や学校での活動、頻りに鳴る空襲警報、今ではありえないことです。しかし、日本が戦争をしていた時代に、確かにそれは日常となっていました。世界では、このような悲惨な日常が実際に起きている地域もあります。今回のお話を聞いて、このようなことは今後起こしてはいけないと、強く感じました。

学び挑戦することを大切に

プロクラブ主催のバスケットボールクリニック 7月21日(月・祝)

2025-2026シーズンから初めてB1リーグに参入する、プロバスケットボールクラブ「アルティエリ千葉」主催のバスケットボールクリニックに、多古町の小学生バスケットボールクラブ「多古レイクス」、多古中学校バスケットボール部の選手が参加しました。

ユースコーチとチームの司令塔である杉本慶選手の指導により、楽しくプレーし、そしてプロの技術に目を輝かせていました。

プロ選手、コーチと交流し、スポーツを通じたチャレンジ精神、そしてあいさつの大切さを実感でき、子どもたちにとってとても貴重な体験となりました。



▲一人ひとり丁寧に教えてくれました



▲シュート対決に向けてみんなで作戦会議



▲子どもたちに見本を見せる杉本選手